

# 知る人ぞ知る福岡ブランド、ごみ処理技術の「フクオカ・メソッド」...半世紀で世界21か国へ輸出

原聖悟 後

福岡市と福岡大学（福岡市）が共同で開発した埋め立てごみの処理手法「福岡方式」が、実用化から50年を迎えた。低コストでメタンガスの発生を抑えるなど環境への負荷を大きく減らせるのが特長で、これまでに世界21か国に輸出されている。今年に入って環境省の国際協カプロジェクトへの採決済み、知る人ぞ知る「福岡」ブランドに成長している。（原聖悟、後藤茜）

## 途上国でも簡単

福岡市西区の西部埋立場を5月下旬、福岡方式を学ぶために来日した18か国の外国人約30人が訪れた。



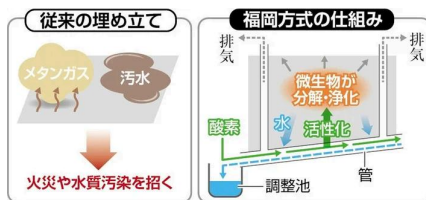
竹と古タイヤで管をつくる方法を学ぶ外国人研修生ら（5月、福岡市西区の西部埋立場で）

指導役の市職員らが手にしたのは、竹と古タイヤだ。節をくりぬいた竹や重ねたタイヤを排水管とし、ごみの中に埋める方法を説明した。見学者の一人で、北アフリカ・チュニジアの廃棄物管理公社で国際力部長を務めるミリアム・ジェナイヤさん（49）は、「コストが安く済むのが大きな利点。『フクオカ・メソッド（手法）』で環境問題の解決を進めたい」と話した。

1975年に誕生した福岡方式は、ごみ埋め立て場の底や隙間に管を設置し、内部に空気を送り込むことで微生物による分解を促す仕組みだ。メタンガスの発生も抑え、二酸化炭素に換算した場合、温室効果ガスを最大で半減させられるという。ごみからしみ出る汚水の浄化効果もある。地中に管を通すだけの造りも単純で、電気などの動力も必要ない。

79年には国の埋め立て場の標準仕様に。開発者の一人、福岡大の松藤康司名誉教授（77）によると、現在では国内約2000か所の埋め立て場の8割以上で導入されているという。この日の研修会に立ち会った松藤名誉教授は「高価なコンクリートや金属製の管と比べ、竹や古タイヤならどこでも手に入る。最大の長所は、途上国でも簡単に導入できることで、世界に『福岡』の名が広がり、誇らしい」と力を張る。

地質が早期に安定する特色もあり、80年代に取り入れた市内の埋め立て地は、すでに農園や学校に生まれ変わっているという。



従来埋め立てと福岡方式の仕組み

## 海外研修生は38か国から

福岡方式が生まれた当時は、熊本県の水俣病や北九州工業地帯のばい煙・排水に代表される公害が社会問題化していた。

ごみ問題もその一つ。埋め立て地ではガスに引火する火災が頻発し、河川の水質汚染も深刻になっていた。ごみ処理の研究に周囲の理解は乏しかったが、松藤名誉教授は学生と連日、埋め立て場に通り詰めた。「誰かがこの問題に取り組みないといけない」という一心で研究を続け、管の設置で微生物活性化できることを実証した。

途上国では金属資材などを手に入れることが難しいと知ると、自生する竹や捨てられたタイヤを排水管代わりにするアイデアも実現させ、改良を重ねてきた。

以来、88年の東南アジア・マレーシアを手始めにアジアやアフリカ、中南米などに広がった。福岡市は99年から海外研修生の受け入れも始め、これまでに計38か国の約240人が福岡方式を学んでいる。高島宗一郎市長は「『福岡』という名前が世界で選ばれ、地球環境に貢献していることを誉れ思う」と喜ぶ。

実績に着目した環境省は今年度、技術支援を受けた途上国が減らした温室効果ガスの一部を日本の削減分として扱える「2国間クレジット制度」の枠組みに選んだ。4月にチュニジアと協定が結ばれ、首都チュニス近郊の埋め立て場約3400平方メートルでの導入が決まっている。

人口増が著しいチュニジアでは、年間1%超の伸びでごみの排出量が増え続けている。来年1月から本格稼働する埋め立て場で削減できる温室効果ガスは、10年間でみずほペイパードーム60杯分の約5120トンに上る見込みだ。ミリアムさんは「チュニジアにとって大変重要なプロジェクトだ。[

とウィンウィンの関係を築いていきたい」と期待を示す。

## 北九州市は水道技術を伝授

かつて数々の公害に悩まされた地として、九州・山口では培った技術や知見を途上国へ積極的に伝えようとする動きが活発だ。

川や海の汚染対策に力を注いできた北九州市上下水道局は、30年以上にわたって東南アジアなどに職員らを派遣する。水道の整備や維持管理、浄化技術だけでなく、法整備のあり方も教えている。同局海外事業課の矢山将志課長は「国際貢献だけでなく、職員にとっても大きな業務経験となる。人材育成や確保にも役立っている」と話す。

大正～昭和期に多くのヒ素中毒者を出す「土呂久公害」が起きた宮崎県高千穂町。支援者らが設立したNPO法人「アジア砒素ネットワーク」がブラジルに治療や情報交換の拠点をつくった。

石炭産業の発展に伴う公害を克服した山口県宇部市では、国際協力機構（JICA）や山口大とも協力し、途上国から研修生を招いたり、廃棄物処理専門家を向かわせたりしている。

### 関連ワード

#チュニジア

#バングラデシュ

#マレーシア

#北九州市

#国際協力機構

関連ワードをすべて見る [+](#)

[記事に関する報](#)

読売新聞オンラインに掲載している記事や写真などは、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。読売新聞社など著作権者の承諾を得ずに、転載、インターネット送信などの方法で利用できません。

© The Yomiuri Shimbun.